

スペイン. 文学の旅

訳例と解答例

25. サール川の岸辺で(3), p.59

長年の雪と悲しみの永久(とわ)の氷は
心から愛の幻想と
甘い慰めをすべて奪いさる。
ただ恐れでいっぱい
の失望と
冷たい不信だけが
私の胸が感じる苦しみをつのらせ
傷を深めて
生命の永遠の泉が湧(わ)く天国から
私を追放する。

*訂正: VOCABULARIO の *negar* は(語根母音変化 e~ie)が必要です。

*L2. *constante* は *el hielo* を修飾します。 *el hielo constante de la tristeza* という語順になります。「悲しみの永久(とわ)の氷」と訂正します。この語順は3行の *consuelo* と脚韻を合わせるためです。

*L2. *al alma niegan* の *al* は？

→*negar* は「(…を[a])拒む」という意味で、前置詞 *a* をとります。*alma* は女性名詞ですが、直前の定冠詞は *el* となります。これは次の課の *ave* と同じです。

*L5. *de la duda* は *preñados* につなげてよいか？この *de* の役割は？

→*de la duda* は次の *el frío* につながります。*preñados* につなげると、一方で *temores*, もう一方で *la duda* というように無冠詞と定冠詞が並ぶので無理があります。

*L5. *de la duda el frío* はどうして「冷たい不信」となるのですか？

→これは el frío de la duda で、直訳すると「疑い(不信)の冷たさ」という意味です。これはつまり、信じることのできない辛さを指していると思います。duda fría というよりも、その frío「冷たさ」を取り出している表現です。

*L9. は、donde brotan las fuentes eternas de la vida「生命の永遠の泉が湧く(場所)」となります。

●EJERCICIO, p.60

- (1) 子供たちが出ていってから、彼は仕事を始めた。
- (2) することががこんなにあるので、私たちは今日すべてを終わらせることができないのではないかと思う。
- (3) 仕事を分担すれば、全員の仕事量は少なくなるだろう。

* (1) dispuso は「準備した」と解釈すべきではないか？

→その通りです。「彼は仕事の支度を始めた」と訂正します。

* (3) tendríamos は過去未来形。仮定法(反実仮想)の文の仮定説が分詞構文になっている。反実仮想なので、「仕事を分担したならば、全員の仕事量は少なくなるのに」と訳すほうがわかりやすいが、このように完全に現在の事実と反対でなくても仮定文が作られることがある。接続法は文の調子を和らげる働きがある。